

## 骨転移を有する進行非小細胞肺癌のうち、骨代謝マーカー 高値例に対するゾレドロン酸投与の第Ⅱ相臨床試験

非小細胞肺癌の骨転移が進行すると、骨痛などの症状を引き起こす可能性があります。治療方針としては抗がん剤による治療に加え、骨転移の進行を抑える治療として、ビスホスホネートによる治療が最も有効と考えられます。

ビスホスホネートは骨を壊す破骨細胞の働きを抑え、がん細胞が骨に住み着きにくくして骨転移の進行を抑えます。これによって骨がもろくなるのを抑えたり、症状の発現を遅らせたり軽くすることができます。

破骨細胞が働くと、血液や尿中に特徴的な物質が出てきます。これを「骨代謝マーカー」といい、骨が壊される時のマーカーを「骨吸収マーカー」と言います。本試験では、骨吸収マーカーの値が基準値より高い患者さんに、抗がん剤による治療とビスホスホネートであるゾレドロン酸を用いて治療を行います。これは、現在、標準的治療として推奨されている治療方法です。しかしながら、骨代謝マーカーの推移と、骨痛が発現するまでの期間や病気の進み具合との関係についての報告は限られており、その相関性は明らかではありません。

この試験の目的は骨吸収マーカーの値が高い、骨に転移した進行非小細胞肺癌の患者さんに対し、標準的化学療法とゾレドロン酸による治療を実施し、骨吸収マーカーの推移と、骨の痛みなどの症状の発現や病気の進み具合との関係を明らかにすることです。